

「三陸沿岸道路」の新たな考え方について

(1/2)

- 三陸沿岸道路は従来、整備が進んでこなかったが、今回の東日本大震災において、命の道としての機能を発揮
- 早期復興のためには、各地域が役割分担をしつつ広域的に連携していくため「復興高速道路※」が必要。三陸沿岸道路は、各地域を縦につなぎ、地域間の連絡性を高めることにより、これを促進。
※高速道路のあり方検討有識者委員会
「東日本大震災を踏まえた緊急提言(平成23年7月14日)」より
- これらの点から、三陸沿岸道路は暮らしを支え、命を守るために全線の整備が必要。
 - ① 平時に暮らしを支える — 医療サービス、産業、観光
(各地域が役割分担をしつつ広域的に連携)
 - ② 災害時に命を守る — 避難、救命救急、復旧
- 一方、厳しい財政状況から一層の効率性が問われており、基本設計を見直し、低コストを実現していく必要
- こうした要請を踏まえ、6つの設計見直しにより、低コストを実現しつつ、暮らしを支え命を守る機能を強化した被災地復興のリーディングプロジェクトとして整備を進める

「三陸沿岸道路」の新たな考え方について

(2/2)

6つの設計見直し

- ① 強靱性の確保(別紙1)
- ② 低コストの実現(別紙2)
- ③ 復興まちづくりの支援(別紙3)
- ④ 拠点と連結するインターチェンジ等の弾力的配置(別紙4)
- ⑤ 避難機能の強化(別紙5)
- ⑥ ICTによる通行可能性把握(別紙6)

6つの設計見直し

①強靱性の確保

別紙1

釜石山田道路の例

津波を考慮して計画された釜石山田道路は被害無し
(同じ断面の国道45号は道路流失により寸断)

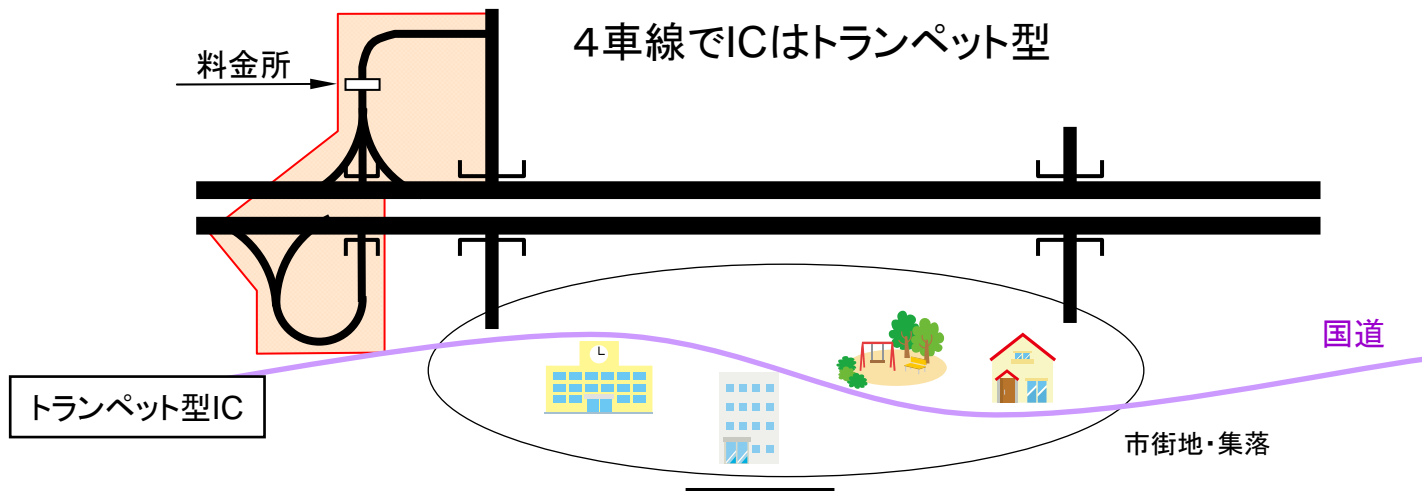


6つの設計見直し ②低コストの実現

別紙2

車線数及びコンパクトなICのイメージ

従来



見直し



6つの設計見直し

③復興まちづくりの支援

南三陸町の例

高台に計画されている居住ゾーン等とのアクセスに配慮した位置にICを計画

三陸沿岸道路
(南三陸道路)



居住ゾーン等は今回の津波浸水区域を避けて高台に計画

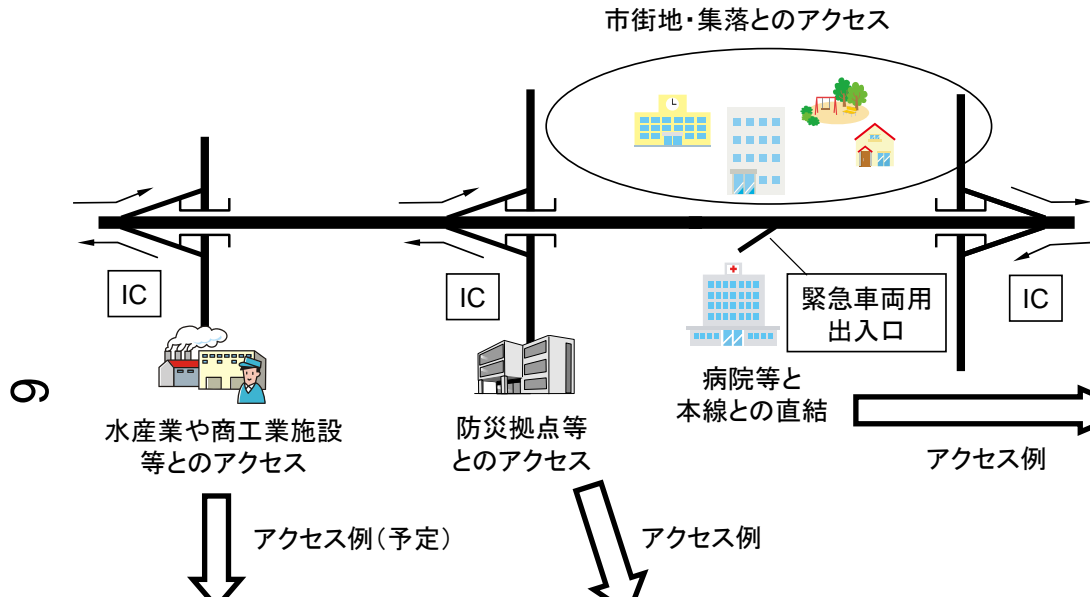
浸水域部は公園・緑地ゾーンをメインに、観光ゾーンや施設誘致ゾーン等を計画

※南三陸町の「志津川地区 土地利用計画イメージ図(5年～10年)」を基に作成

6つの設計見直し

④拠点と連絡するインターチェンジ等の弾力的配置

インターチェンジ等の弾力的配置イメージ



▲水産業施設

(気仙沼港: 気仙沼市)

※8/6気仙沼市復興会議資料では、復興まちづくりの方向性として「震災復興をきっかけとした水産関連業等の主要産業の高度化、活性化」とされている。

▲防災拠点施設

(ベイサイドアリーナ: 南三陸町)

▲三陸沿岸道路と直結する医療施設

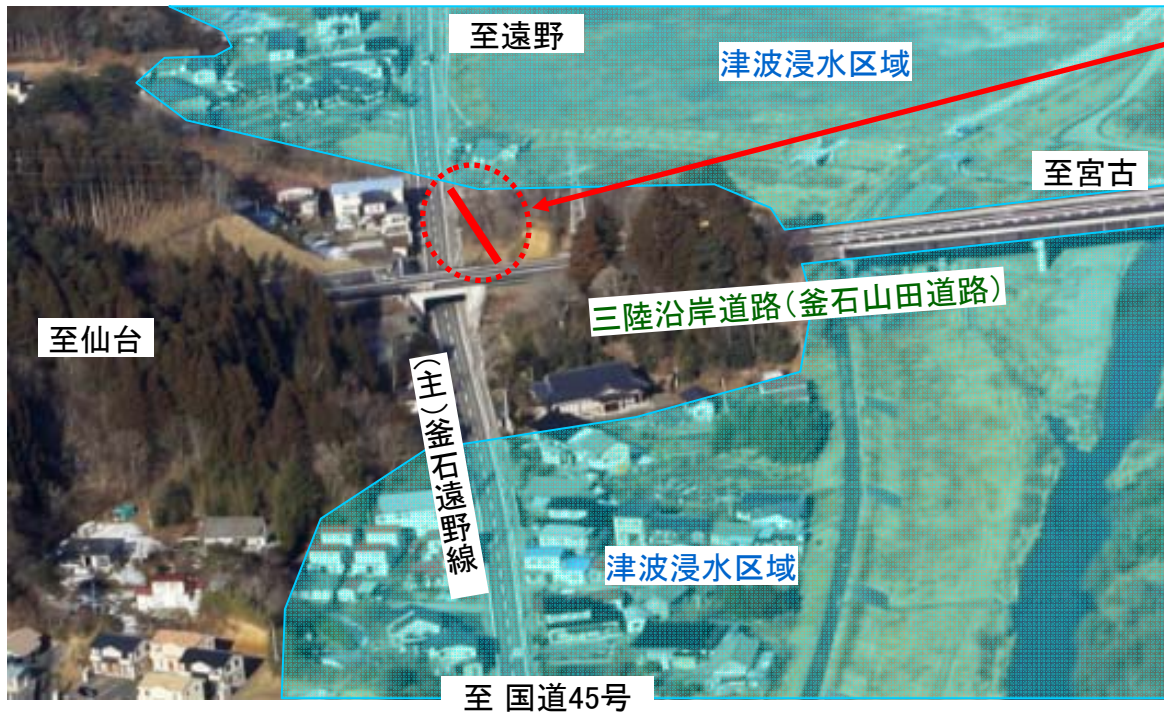
(石巻赤十字病院: 石巻市)

6つの設計見直し

⑤避難機能の強化

釜石山田道路の例(緊急避難路)

発災後、内陸から被災地への救援・救助活動を目的に、
(主)釜石遠野線と三陸沿岸道路を緊急避難路で直結。



三陸沿岸道路の避難階段設置イメージ

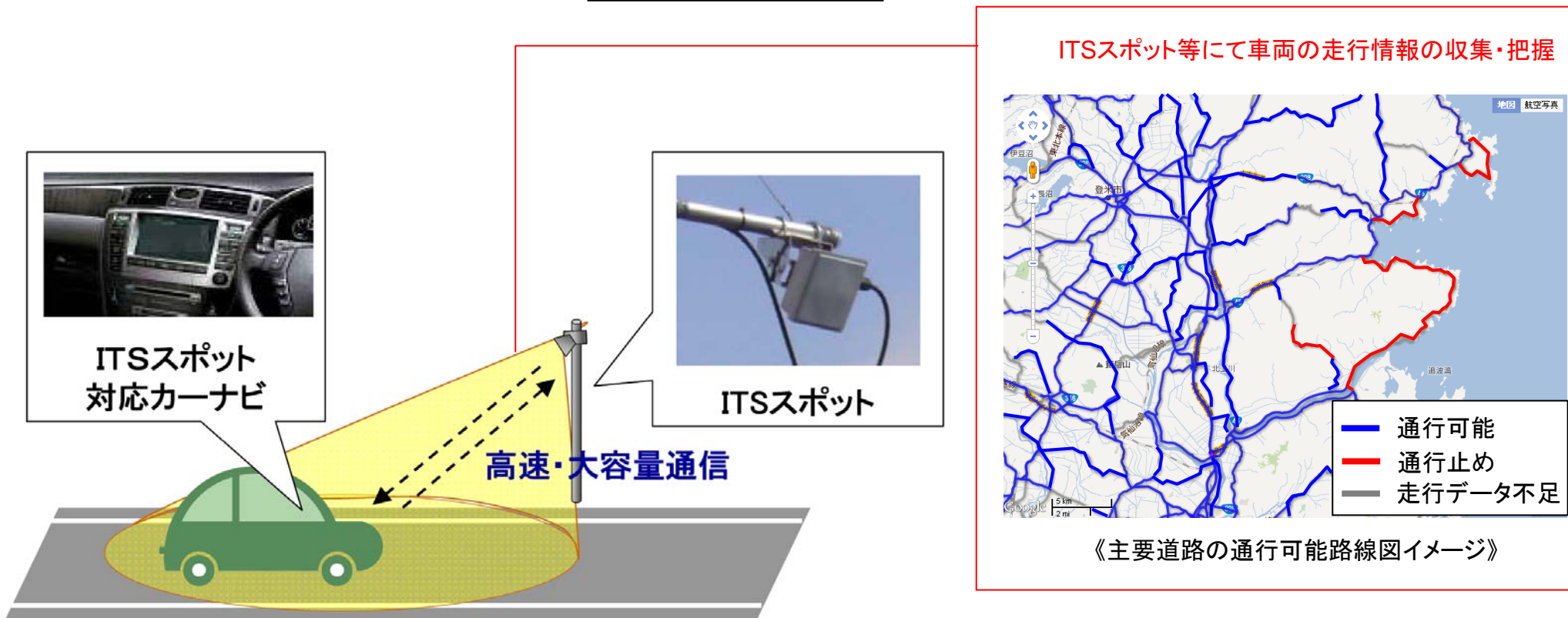


6つの設計見直し

⑥ICT(情報通信技術)による通行可能性把握

ICT活用のイメージ

8



車の走行ルートや走行速度などの情報(プローブ情報)を収集することにより、通行可能ルートやリアルタイムな道路交通状況等の高精度な道路交通情報の把握が可能となります。